

2 專門基礎分野

授業科目名	解剖生理・診断治療学Ⅰ（呼吸器・運動器）	第二看護学科 1年次 前期 1単位（30時間）
-------	----------------------	-------------------------------

Ⅰ．授業のねらい・目標

ねらい
健康な人間の理解を、人体の構造（解剖学）と機能（生理学）の側面から理解する。また、重複をなくすために、構造と機能は統合して学ぶ。解剖生理とその機能障害（疾病）との関連が理解しやすいよう、器官系統別の疾患を同じ枠組みで学ぶことにより病態、治療、検査及び処置を理解する。
目 標
1）呼吸器系の構造（解剖学）と機能（生理学）を統合して理解する。
2）呼吸器系疾患の病態・治療・検査・処置について理解する。
3）運動器系の構造（解剖学）と機能（生理学）を統合して理解する。
4）運動器系疾患の病態・治療・検査・処置について理解する。

Ⅱ．授業計画

回	授 業 内 容		講義・演習	備考
1	呼 吸 器	呼吸器系の構造と機能	講義	
2		呼吸器系の構造と機能		
3		呼吸器系の症状と病態生理		
4		検査・処置		
5		疾患の理解（感染症、間質性肺疾患）		
6		疾患の理解（慢性閉塞性肺疾患）		
7		疾患の理解（肺腫瘍）		
8		疾患の理解（呼吸不全、胸膜疾患）		
9	運 動 器	運動器系の構造と機能、症状と病態生理	講義	
10		運動器系の構造と機能、症状と病態生理		
11		診断と検査		
12		治療・処置		
13		疾患の理解（外傷性運動器疾患（骨折、脱臼など）骨・関節の炎症性疾患など）		
14		疾患の理解（骨腫瘍及び軟部腫瘍、神経の疾患など）		
15		疾患の理解（脊椎の疾患など）		

Ⅲ．使用テキスト・参考文献

系統看護学講座	専門基礎分野	人体の構造と機能[1]	解剖生理学	医学書院
系統看護学講座	専門分野	成人看護学[2]	呼吸器	医学書院
系統看護学講座	専門分野	成人看護学[10]	運動器	医学書院

Ⅳ．成績評価の方法

筆記試験、提出物、参加状況

授業科目名 解剖生理・診断治療学Ⅱ（消化器・内分泌）	第二看護学科 1年次 前期 1単位（30時間）
----------------------------	-------------------------------

I. 授業のねらい・目標

ねらい
健康な人間の理解を、人体の構造（解剖学）と機能（生理学）の側面から理解する。また、重複をなくすために、構造と機能は統合して学ぶ。解剖生理とその機能障害（疾病）との関連が理解しやすいよう、器官系統別の疾患を同じ枠組みで学ぶことにより病態、治療、検査及び処置を理解する。
目 標
1) 消化器系の構造（解剖学）と機能（生理学）を統合して理解する。
2) 消化器系疾患の病態・治療・検査・処置について理解する。
3) 内分泌系の構造（解剖学）と機能（生理学）を統合して理解する。
4) 内分泌系疾患の病態・治療・検査・処置について理解する。

II. 授業計画

回	授 業 内 容		講義・演習	備考	
1	消化器	消化器系の構造と機能	講義		
2		消化器系の症状・徴候とその病態生理			
3		検査・治療・処置			
4		食道・胃の疾患（炎症性疾患、潰瘍、腫瘍）			
5					
6					腸の疾患（腫瘍、腸閉塞）
7					肝臓・胆嚢・膵臓疾患（炎症性疾患、肝硬変、腫瘍）
8		肝臓・胆嚢・膵臓疾患（脂肪肝、アルコール性肝炎、胆石症）			
9	内分泌	内分泌器官の構造と機能	講義		
10		ホルモンの機能			
11		内分泌器官検査			
12		疾患の理解（プロラクチノーマ、非機能性下垂体腫瘍など）			
13		疾患の理解（クッシング症候群、バセドウ病など）			
14		疾患の理解（原発性アルドステロン、高尿酸結症など）			
15		疾患の理解（糖尿病など）			

III. 使用テキスト・参考文献

系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1]	解剖生理学 医学書院
系統看護学講座 専門分野 成人看護学[5]	消化器 医学書院
系統看護学講座 専門分野 成人看護学[6]	内分泌・代謝 医学書院

IV. 成績評価の方法

筆記試験、提出物、参加状況

授業科目名 解剖生理・診断治療学Ⅲ（循環器・感覚器）	第二看護学科 1年次 後期 1単位（30時間）
----------------------------	-------------------------------

I. 授業のねらい・目標

ねらい

健康な人間の理解を、人体の構造（解剖学）と機能（生理学）の側面から理解する。また、重複をなくすために、構造と機能は統合して学ぶ。解剖生理とその機能障害（疾病）との関連が理解しやすいよう、器官系統別の疾患を同じ枠組みで学ぶことにより病態、治療、検査及び処置を理解する。

目 標

- 1) 循環器系の構造（解剖学）と機能（生理学）を統合して理解する。
- 2) 循環器系疾患の病態・治療・検査・処置について理解する。
- 3) 感覚器系（眼・耳鼻咽喉・皮膚）の構造（解剖学）と機能（生理学）を統合して理解する。
- 4) 感覚器系疾患の病態・治療・検査・処置について理解する。

II. 授業計画

Ⅱ. 授業計画

回	授 業 内 容		講義・演習	備考
1	循 環 器	循環器系の構造と機能	講義	
2		循環器系の症状・検査・治療		
3		虚血性心疾患		
4		不整脈、血圧異常		
5		心不全、弁膜症 心筋症、先天性心疾患		
6				
7				
8		動脈系疾患、静脈系疾患		
9	感 覚 器	眼と付属器の構造と機能、症状とその病態生理 検査と治療、疾患の理解（白内障、緑内障、網膜剥離、網膜症）	講義	
10				
11		耳鼻咽喉・頸部の構造と機能、症状とその病態生理、 検査と治療 疾患の理解（炎症性疾患、腫瘍、難聴） 疾患の理解（メニエール病、嗅覚・味覚障害）	講義	
12				
13				
14		皮膚の構造と機能、症状とその病態生理、検査と治療 疾患の理解（湿疹、アトピー性皮膚炎、带状疱疹、疥癬、蜂窩織炎）	講義	
15				

III. 使用テキスト・参考文献

系統看護学講座	専門基礎分野	人体の構造と機能[1]	解剖生理学	医学書院
系統看護学講座	専門分野	成人看護学[3]	循環器	医学書院
系統看護学講座	専門分野	成人看護学[12]	皮膚 [13]眼 [14]耳鼻咽喉	医学書院

IV. 成績評価の方法

筆記試験、提出物、参加状況

授業科目名 解剖生理・診断治療学Ⅳ (腎臓・泌尿器・血液・女性生殖器)	第二看護学科 1 年次 後期 1 単位 (30 時間)
--	-----------------------------------

I. 授業のねらい・目標

ねらい

健康な人間の理解を、人体の構造（解剖学）と機能（生理学）の側面から理解する。また、重複をなくすために、構造と機能は統合して学ぶ。解剖生理とその機能障害（疾病）との関連が理解しやすいよう、器官系統別の疾患を同じ枠組みで学ぶことにより病態、治療、検査及び処置を理解する。

目 標

- 1) 腎臓・泌尿器系の構造（解剖学）と機能（生理学）を統合して理解する。
- 2) 腎臓・泌尿器系疾患の病態・治療・検査・処置について理解する。
- 3) 血液・リンパ系の構造（解剖学）と機能（生理学）を統合して理解する。
- 4) 血液・リンパ系疾患の病態・治療・検査・処置について理解する。
- 5) 女性生殖器の構造（解剖学）と機能（生理学）を統合して理解する。
- 6) 女性生殖器系疾患の病態・治療・検査・処置について理解する。

II. 授業計画

回	授 業 内 容		講義・演習	備考
1	腎臓	腎臓の構造と機能	講義	
2		症状とその病態生理、検査・診断と治療・処置		
3		疾患の理解（腎不全、腎炎、慢性腎臓病、腎血管性病変、腫瘍）		
4	泌尿器	泌尿器系・生殖器系の構造と機能	講義	
5		症状とその病態生理、検査・診断と治療・処置		
6		疾患の理解（尿路・性器の感染症、尿路の通過障害、排尿障害、腫瘍）		
7	血液	血液の成分と造血のしくみ	講義	
8		症状とその病態生理、検査・診断と治療・処置		
9		疾患の理解（赤血球系の疾患、白血球系の疾患）		
10		疾患の理解（造血器腫瘍）		
11		疾患の理解（出血性疾患）		
12	女性生殖器	女性生殖器の構造と機能	講義	
13		検査・診断と治療・処置		
14		疾患の理解（外陰部疾患、陰疾患、子宮疾患、卵管疾患、卵巣疾患）		
15		疾患の理解（骨盤疾患、乳房疾患、月経異常、更年期障害）		

III. 使用テキスト・参考文献

系統看護学講座	専門基礎分野	人体の構造と機能[1]	解剖生理学	医学書院
系統看護学講座	専門分野	成人看護学[8]	腎・泌尿器	医学書院
系統看護学講座	専門分野	成人看護学[4]	血液・造血器	医学書院
系統看護学講座	専門分野	成人看護学[9]	女性生殖器	医学書院

IV. 成績評価の方法

筆記試験、提出物、参加状況

授業科目名 解剖生理・診断治療学V
(脳神経・放射線)

第二看護学科
1年次 後期
1単位(30時間)

I. 授業のねらい・目標

ねらい

健康な人間の理解を、人体の構造(解剖学)と機能(生理学)の側面から理解する。また、重複をなくすために、構造と機能は統合して学ぶ。解剖生理とその機能障害(疾病)との関連が理解しやすいよう、器官系統別の疾患を同じ枠組みで学ぶことにより病態、治療、検査及び処置を理解する。

目 標

- 1) 脳神経系の構造(解剖学)と機能(生理学)を統合して理解する。
- 2) 脳神経系疾患の病態・治療・検査・処置について理解する。
- 3) 放射線医学で使用される検査・治療法の種類、作用、副作用を学び、その実際を理解する。

II. 授業計画

II. 授業計画		授 業 内 容	講義・演習	備考	
回					
1	脳 神 経	脳神経系の構造と機能	講義		
2					
3					脳神経系の症状と病態生理
4					検査、診断と治療、処置
5					疾患の理解（脳疾患）
6					疾患の理解（脊髄疾患、末梢神経障害）
7					疾患の理解（神経・筋疾患、脱髄・変形疾患）
8					疾患の理解（脳神経系の感染症、中毒、てんかん、認知症）
9	放 射 線	放射線医学	講義		
10		放射線障害と被爆防護			
11		CT、画像診断			
12		IVR、血管造影			
13		核医学、PET			
14		MRI、超音波検査			
15		放射線治療			

III. 使用テキスト・参考文献

系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学 医学書院
 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[7] 脳・神経 医学書院
 系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学 医学書院

IV. 成績評価の方法

筆記試験、提出物、参加状況

授業科目名 解剖生理・診断治療学演習

第二看護学科

1 年次 後期

1 単位 (15 時間)

I. 授業のねらい・目標

ねらい

解剖生理・診断治療学Ⅰ～Ⅴをもとに、事例を活用し、解剖生理・病態・治療・検査について統合して学ぶ。演習を通し、看護の視点から人体を系統だてて理解し、学生の主体的学習により学びを深め、看護実践の基礎とする。

目 標

- 1) 解剖生理・診断治療学で既習した知識（解剖学・生理学）を活用し、人体を統合的にとらえる方法を理解する。
- 2) 事例を通じて、病態・治療・検査・処置について考え、グループワークによる、主体的な学びから、看護の視点を持ち、その実際を理解する。

II. 授業計画

回	授 業 内 容	講義・演習	備考
1	呼吸器・運動器・消化器・循環器・腎・泌尿器・脳神経の事例を活用し、系統的に人体を理解する。グループワークにより、思考の広がり看護実践の基礎を学ぶ。	講義・演習	
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			

III. 使用テキスト・参考文献

系統看護学講座	専門基礎分野	人体の構造と機能[1]	解剖生理学	医学書院
系統看護学講座	専門基礎分野	人体の構造と機能[3]	栄養学	医学書院
系統看護学講座	専門基礎分野	疾病の成り立ちと回復の促進[1]	病理学	医学書院
系統看護学講座	専門基礎分野	疾病の成り立ちと回復の促進[3]	薬理学	医学書院
系統看護学講座	専門分野	成人看護学[2]	呼吸器	医学書院
系統看護学講座	専門分野	成人看護学[10]	運動器	医学書院
系統看護学講座	専門分野	成人看護学[5]	消化器	医学書院
系統看護学講座	専門分野	成人看護学[3]	循環器	医学書院
系統看護学講座	専門分野	成人看護学[8]	腎・泌尿器	医学書院
系統看護学講座	専門分野	成人看護学[7]	脳・神経	医学書院
系統看護学講座	別巻	臨床放射線医学		医学書院

IV. 成績評価の方法

筆記試験、提出物、参加状況

授業科目名 生化学	第二看護学科 1 年次 後期 1 単位 (15 時間)
-----------	-----------------------------------

I. 授業のねらい・目標

ねらい

人体の構成成分である化学物質の性状、その分布及び代謝について学ぶ。

目 標

- 1) 人体を構成するための材料や生命維持や活動の源となる栄養素を人体に取り込む過程を理解できる。
- 2) 体内で行われる代謝の働きについて知り、そこで取り扱われる物質と化学反応の性質を理解できる。

II. 授業計画

回	授 業 内 容	講義・演習	備考
1	代謝総論 細胞と細胞小器官、糖質、脂質	講義	
2	アミノ酸とタンパク質・酵素、核酸、ビタミン		
3	遺伝情報とその発現、先天性代謝異常		
4	糖質代謝		
5	脂質代謝		
6	タンパク質とアミノ酸代謝		
7	核酸・ヌクレオチド代謝、代謝異常と疾患		
8	全体まとめ		

III. 使用テキスト・参考文献

ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能 ②臨床生化学 メディカ出版

IV. 成績評価の方法

筆記試験、提出物、参加状況

授業科目名 栄養学	第二看護学科 1 年次 後期 1 単位 (15 時間)
-----------	-----------------------------------

I. 授業のねらい・目標

ねらい

栄養状態の査定の知識を学び、食事療法の基本を学ぶ。

目 標

- 1) 生体が発育・成長して生命を維持し、健全な生命活動を営むために、体外から取り入れるべき栄養素の種類と働きを理解できる。
- 2) 必要な栄養素が不足することでおこる生体への影響を知り、食生活にかかわる問題解決に取り組む手段を考えることができる。

II. 授業計画

回	授 業 内 容	講義・演習	備考
1	人間栄養学と看護 栄養ケア・マネジメント	講義	
2	栄養状態の評価・判定		
3	栄養素の種類と働き		
4	栄養素の消化・吸収 体内代謝		
5	エネルギー代謝 食事と食品		
6	ライフステージと栄養		
7	臨床栄養		
8	臨床栄養 まとめ		

III. 使用テキスト・参考文献

系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[3] 栄養学 医学書院

IV. 成績評価の方法

筆記試験、提出物、参加状況

授業科目名 薬理学	第二看護学科 1 年次 前期 1 単位 (30 時間)
-----------	-----------------------------------

I. 授業のねらい・目標

ねらい
薬物の特徴、作用機序、人体への影響及び薬物管理について学ぶ。薬物療法の実際を学ぶ。
目 標
1) 薬物療法で用いる薬物の特徴や薬物動態について知り、その効果に影響する生体及び個人的因子とその反応を理解できる。
2) 生体各器官に特異的に効果を発揮する薬物について、それぞれの作用機序とその効果について理解できる。
3) 薬物の取扱いについて、法的根拠と薬物の特性に応じた管理方法について理解できる。

II. 授業計画

回	授 業 内 容	講義・演習	備考
1	医薬品総論（前半）	講義	
2	医薬品総論（後半）		
3	末梢神経系に作用する薬物（前半）		
4	末梢神経系に作用する薬物（後半）		
5	心臓・血管系に作用する薬物		
6	物質代謝に作用する薬物		
7	感染症に使用する薬（前半）		
8	感染症に使用する薬（後半）		
9	免疫系の薬理（アレルギーを含む）		
10	抗癌剤		
11	脳・中枢神経系疾患に使用する薬（麻薬を含む）（前半）		
12	脳・中枢神経系疾患に使用する薬（麻薬を含む）（後半）		
13	呼吸器・生殖系に使用する薬		
14	消化器系疾患に使用する薬		
15	その他（緑内障や皮膚科疾患等）		

III. 使用テキスト・参考文献

系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進[3]薬理学 医学書院

IV. 成績評価の方法

筆記試験、提出物、参加状況

授業科目名 病理学	第二看護学科 1 年次 後期 1 単位 (15 時間)
-----------	-----------------------------------

I. 授業のねらい・目標

ねらい

病因と病変の特徴について学ぶ。

目 標

- 1) 病気によってもたらされる生体の器官・組織・細胞の特徴的な変化を知り、病気の原因や成り立ち、発生機序を理解できる。
- 2) 主な疾患による生体の特徴的な変化を知り、病態や治療の科学的根拠を理解できる。

II. 授業計画

回	授 業 内 容	講義・演習	備考
1	病理学で学ぶこと 病気の原因と分類	講義	
2	細胞と組織（構造・機能・増殖・分類）		
3	先天異常と遺伝子異常		
4	循環障害		
5	炎症		
6	免疫・膠原病		
7	感染症、腫瘍、老化と死、統計など		
8			

III. 使用テキスト・参考文献

系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進[1]病理学 医学書院

IV. 成績評価の方法

筆記試験、提出物、参加状況

授業科目名	微生物学	第二看護学科 1 年次 前期 1 単位（15 時間）
-------	------	----------------------------------

I. 授業のねらい・目標

ねらい
微生物の特徴と生体に及ぼす影響を学ぶ。
目 標
1) 地球上に存在している微生物の種類や特徴を知り、自然界において微生物と他の生物との関係性について考えることができる。
2) ヒトに病気を起こす病原微生物の種類とそのメカニズムを知り、感染症の診断や治療、予防法を理解できる。

II. 授業計画

回	授 業 内 容	講義・演習	備考
1	微生物学総論（歴史、微生物学を学ぶ意義、感染症の原因になりうる微生物とその特徴）	講義	
2	感染と免疫、滅菌と消毒、感染予防		
3	細菌学 1		
4	細菌学 2		
5	ウイルス学 1		
6	ウイルス学 2		
7	真菌学、原虫学、抗菌物質と薬剤耐性について		
8	まとめ（45分）		

III. 使用テキスト・参考文献

ビジュアル微生物学 ヌーヴェルヒロカワ

IV. 成績評価の方法

筆記試験、提出物、参加状況

授業科目名	保健医療論	第二看護学科 1 年次 後期 1 単位（15 時間）
-------	-------	----------------------------------

I. 授業のねらい・目標

ねらい

現代の保健・医療・福祉の抱えている問題点とその背景を知り、専門職としての認識を深める。

目 標

- 1) 医療の歩みと医療観の変遷を知り、医療と看護の原点となる人々の命や病と健康の考え方を理解することができる。
- 2) 人々の生活と健康をまもる保健・医療・福祉のあり方や現代医療の新たな課題を知り、看護師の役割を考えることができる。

II. 授業計画

回	授 業 内 容	講義・演習	備考
1	医療と看護の原点	講義	
2	医療の歩みと医療観の変遷		
3	私たちの生活と健康		
4	科学技術の進歩と現代医療の最前線		
5	現代医学の新たな課題		
6	医療を見つめ直す新しい視点		
7	保健・医療・福祉の潮流		
8	まとめ		

III. 使用テキスト・参考文献

系統看護学講座 別巻 総合医療論 医学書院

IV. 成績評価の方法

筆記試験、提出物、参加状況